

# 博士課程教育リーディングプログラム 平成25年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成25年度		
申請大学名	早稲田大学	申請大学長名	鎌田 薫
申請類型	複合領域型（情報）	プログラム責任者名	橋本 周司
整理番号	R04	プログラムコーディネーター名	菅野 重樹
プログラム名	実体情報学博士プログラム		

## <プログラム進捗状況概要>

### 1. プログラムの目的・大学の改革構想

本プログラムは、情報技術が持つコンピューティングベネフィット（計算の効果）、通信技術が持つネットワークベネフィット（資源共有の効果）、機械技術が持つロボティクスベネフィット（実在と力の効果）の複合的価値創出を指向する中で、医療・環境エネルギーといった重要分野におけるアプリケーションベネフィット（問題を解くこと自体の直接的価値）を導く、「実体」と「情報」の融合学としての「実体情報学(Embodiment Informatics)」を構成し、この新学術領域におけるイノベーションを先導する、先見力、構想力、突破力を兼備した人材を輩出することを目指すものである。これらの力を、海外での異分野交流を含む数々の実習プログラムを通じて与えることで、産業創出を様々な立場で支え、世界を牽引する人材を育成する。そのために、二つの新しい枠組みを用意する。一つ目は、「工房」という教育研究の場である。特定の研究室で研究活動を行うのではなく、共通の空間で常にコミュニケーションを取りつつ、異分野融合の元での研究を効果的に遂行可能になる。本学では、既に同様のスタイルを1980年代から一部で実施している。これは、これまでの大学院教育のスタイルを大きく変えるものであり、本プログラムではこれを明確な大学院の枠組みとして用意する。二つ目は、リーダー養成の5年一貫プログラムを従来型の大学院（2年+3年）の枠組みの中に組み込むことである。大学院教育改革の中核となる5年一貫の新しい大学院教育プログラムとして、本学の教育体制全般の完備化の重要な柱と位置付けている。

## 2. プログラムの進捗状況

平成25年度におけるプログラムの進捗状況は以下のとおりである。

- (1) 本プログラムの実施基盤となるリーダー養成の5年一貫制プログラムである、「実体情報学コース」を新設するにあたって、コース設置準備委員会を設置し、コース新設およびカリキュラム等に関する協議・審議を行った。
- (2) 学生向けのプログラム説明会および選抜を12月と2月から3月にかけてそれぞれ2回行った。12月には既に修士・博士課程に在籍している学生向け、2月には主に学部4年生向けに説明を行い、それぞれ4名と12名の計16名の学生を選抜した。
- (3) 実体情報学コースのカリキュラムとして、講義科目、演習科目、語学科目を設定し、シラバスを作成した。また、早期修了制度、先取り・後取り履修制度を設定し、優秀な学生を確保するための制度設計を行った。
- (4) 学生の学修研究環境整備のために、学問的刺激に満ちた主体的研鑽の場である「工房」の設計および整備を行った。同様の場を持つ複数の海外大学を訪問し、空間設計や運営方針についての視察や先方との意見交換を行い、学生にとって魅力ある工房にするための参考とした。
- (5) キックオフシンポジウムを開催し、海外連携大学、アドバイザーボード海外大学の講師による招待講演、博士学生および若手研究者の研究発表会やパネルディスカッションを行った。また、パンフレットの作成およびホームページを開設した。